

I 「保育の計画性」についての検証結果及び改善策

- ・保育の根本となる教育課程や教育理念について、折にふれて確認や反省をする必要がある。
- ・活動のねらいがまだ押さえられていない時がある。
- ・環境による保育を意識して行うにはどうしたらよいか

II 「保育の在り方、幼児への対応」についての検証結果及び改善策

一人ひとりへの対応が必要といいながら、発信が少ない子の捉えが低い。クラスだよりも出て来にくい。
自分のクラスや自分について、皆評価が上がっているが、職員間の情報共有、意見交換が足りないと思う。

III 「教師としての資質や能力・良識・適性」についての検証結果及び改善策

研修をして、その時は納得するが、その後の実際の保育に活かし切れていない。職員会の度に受けた研修の課題が出るという。
教材や備品の管理について意識が低い。特に、公共の物について紛失や破損が少なくない。

IV 「保護者への対応」についての検証結果及び改善策

対応が難しい保護者にも積極的に関わる必要がある。ちょっとしたことで、保護者と担任の信頼関係が築ける。一見、対応しにくいと感じたり、問題点を指摘してくる困った親と捉えていた人も、少し話をしていくと、悩みがあったり、園の課題をきちんと指摘してくれる人であったりする。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての検証結果及び改善策

まずは職員が生き物に興味関心を持つことが大切。そうしないと指導計画に書かれているだけで終わってしまう。
社会との関わりについては点数が低めだが、園外散歩の時、保育者が挨拶するところを子どもたちに見せていくことだけでも意味がある。

VI 「研修と研究」についての検証結果及び改善策

平成23年度は遠州地区私立幼稚園での研究発表にあたり、職員全員で園内研修に取り組み、色々な学びがあった。特に職員が素直に自分の考えやマイナスと思われることを言い合うことや、研修を使用するという意識を持てるようになるまで等に難しさを感じた。
忙しい中を時間を捻出して研修時間を持つためには、一人ひとりの意識やモチベーションが大切であることがわかった。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策

先生たちと気軽に話すチャンスがもう少し欲しいという保護者からの要望にはやはり充分応えられていない。気軽に話しかけられる雰囲気と時間を一人ひとりが気をつけて持てるようにする。